

令和5年度「千葉県文化芸術推進基本計画」の進捗状況等について

本計画は、文化芸術に関する施策の総合的な推進を図るため策定した計画であり、その推進のため、基本目標及び施策の柱ごとに指標を設け、進捗管理を行うこととしています。

このたび、計画初年度である令和4年度末の進捗状況等を取りまとめました。

I 「千葉県文化芸術推進基本計画」全体の指標

目指す姿	あらゆる人々が文化芸術に親しみ、交流することで創り育む心豊かな県民生活と活力ある地域社会		
指標	策定時 (3年度)	目標 (6年度)	実績 (4年度)
この1年間に文化芸術を鑑賞した県民の割合 (オンラインでの鑑賞を含む)	71.8%	75.0%	74.0%
この1年間に、鑑賞を除く文化芸術活動をしたことがある県民の割合（オンラインでの活動を含む） （「文化芸術活動」とは、創作や出演、習い事、祭りや体験活動、趣味を同じくするグループでの活動への参加を含む）	—	50.0%	24.3%

※県政世論調査の結果による。

令和5年度「千葉県文化芸術推進基本計画」の進捗状況等について

II 「施策の柱」ごとの進捗状況等

- 1 あらゆる人々が文化芸術に親しむことができる環境づくり
 ～文化芸術活動を行う人々の自主性や専門性が尊重されるとともに、障害の有無や年齢等に関わらず、誰もが文化芸術活動を行い、鑑賞することができる環境を整備する～

成果指標	策定時 (3年度)	目標 (6年度)	実績 (4年度)
県の主催事業や、県内公立文化会館（自主事業に限る） 美術館・博物館において、文化芸術を鑑賞した人数 （オンラインの視聴者数を含む）	—	増加を目指す ※	2,789,759人
県の主催事業や、県内公立文化会館（自主事業に限る）、 美術館・博物館において、文化芸術活動を行った人数 （発表、練習、文化芸術関連の講座への参加等） （オンラインの活動を含む）	—	増加を目指す ※	496,153人

※令和4年度に実施する調査の実績値からの増加を目指す。

令和5年度「千葉県文化芸術推進基本計画」の進捗状況等について

II 「施策の柱」ごとの進捗状況等

1 あらゆる人々が文化芸術に親しむことができる環境づくり

県の主な取組	市町村の主な取組
<p>○千葉・県民芸術祭（文化振興課） 県域で活動する文化芸術団体による日頃の文化活動の成果を発表する場の提供及び「ちば文化資産」を活用したコンサートの開催等を行った。</p> <p>○障害者芸術文化活動支援事業（文化振興課） 障害のある人々の作品発表の機会の確保や県全域でのワークショップの実施により、文化振興に寄与した。</p> <p>○ちばアクアラインマラソン開催事業（生涯スポーツ振興課） コロナ禍により4年ぶりの開催となった。 コース沿道では、吹奏楽や和太鼓、ダンスなどの応援パフォーマンスで大会を盛り上げるとともに、観戦者にはスポーツと文化芸術に触れる機会を創出した。</p> <p>○県警音楽隊派遣（県警本部） 新型コロナウイルスも4月以降落ち着き、派遣日数109日、式典、カラーガード隊のドリル演技など合計226回の演奏を行った。</p> <p>○県立学校施設開放事業（生涯学習課） 生涯学習関連団体等の活動支援のため、7校（文化施設5校、交流施設2校）にて学校施設等の開放を行った。</p>	<p>○Ichikawaカルチャー&アーツフェア（市川市） 市内で活動する文化芸術団体の舞台公演や、個人アーティストの芸術作品を展示するイベントを開催することで、市民が文化芸術に触れる機会を創出するとともに、コロナ禍で滞っていた市民主体の文化芸術活動の再開と活性化を図った。</p> <p>○サンスマイル（野田市） 市内小・中学校と市内各施設・障がい者施設入所者等とともに舞台発表を行うもの。市の主催事業ではないが、施設入所者等の社会参加行事の一つとして位置づけられており、舞台発表を通じてふれあいと交流を深めた。</p>
	<p>文化施設（音楽堂・美術館・博物館等）の主な取組</p>
	<p>○手話合唱による「やさしい風になるから」 （青葉の森公園芸術文化ホール） 障害がある方でも気軽に鑑賞できるコンサート。 ろう者の俳優に手話合唱の制作を依頼し、披露した。</p> <p>○いちほら俳句チャレンジ（市原市市民会館） 言語によって表現される文芸のひとつである俳句にチャレンジし、俳人の夏井いつき氏に選句される機会を提供することで、市民の創作活動の向上と文化芸術の振興を図った。</p>

令和5年度「千葉県文化芸術推進基本計画」の進捗状況等について

II 「施策の柱」ごとの進捗状況等

2 ちばの多様な伝統文化が輝き続ける地域づくり

～県内各地で守られてきた伝統文化を地域で活用し、未来に継承する～

成果指標	策定時 (3年度)	目標 (6年度)	実績 (4年度)
県、県立文化会館、県立美術館・博物館が主催する文化芸術行事における、伝統文化事業の鑑賞者数 (オンラインでの視聴を含む)	—	増加を目指す ※	414,913人
県、県立文化会館、県立美術館・博物館が主催する文化芸術行事における、伝統文化体験事業の参加者数 (オンラインでの体験行事を含む)	—	増加を目指す ※	43,045人

※令和4年度に実施する調査の実績値からの増加を目指す。

令和5年度「千葉県文化芸術推進基本計画」の進捗状況等について

II 「施策の柱」ごとの進捗状況等

2 ちばの多様な伝統文化が輝き続ける地域づくり

県の主な取組	市町村の主な取組
<p>○「ちば文化資産」PR事業（文化振興課） 千葉県誕生150周年を記念し、合計150件となるよう追加選定を実施したほか、「ちば文化資産」に関連したキャンペーン等を実施した。</p> <p>○伝統芸能・洋楽～ふれあい体験事業（文化振興課） 県内小中学校（27校）に対し、洋楽、伝統芸能（能楽・雅楽・三曲）のプロの演奏者を派遣し、鑑賞及び楽器体験を行った。</p> <p>○伝統的工芸品産業振興事業（観光企画課） 県内の伝統工芸品を3品（「日本産榎囲碁盤・将棋盤」、「指物家具」、「江戸組紐」）新規指定したほか、伝統工芸品の広報や展示販売会を開催した。</p> <p>○ちばの食育活動促進事業（安全農業推進課） 関係団体と協力し、食育の推進に向けた動画の作成や、リーフレット類の配布、地域における活動交換会の開催、食育ボランティアに対する研修会等を行った。</p> <p>○指定候補文化財等調査事業（文化財課） 千葉県にとって重要な文化財を永く保護するため、指定候補となる文化財調査(6件)及び既指定文化財の保存状況の調査(9件)を行った。</p>	<p>○やちよの民俗行事～厄災除けのワラヘビづくり～ (八千代市) 市内にて継承されている民俗行事を郷土博物館内にて実演もしくは実際に作ってみることで、昔の生活や文化に興味を深める一助とする。</p> <p>○郷土芸能収録業務（大網白里市） 市内で継承されている郷土芸能の発表の機会として動画を撮影して、それをYOUTUBEで公開。（例年は発表会を実施しているが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、形態変更をした）</p>
	<p>文化施設（音楽堂・美術館・博物館等）の主な取組</p> <p>○房総のお浜降り習俗の記録映像作成事業 (千葉県立中央博物館) 房総のお浜降り習俗について、記録映像作成を行い、展示を行った。</p> <p>○無形民俗文化財「上総掘りの技術」体験講座 (袖ヶ浦市郷土博物館) 上総地方で発案され、継承されてきた上総掘りの技術を後世に確実に伝えるため、技術の記録映像の撮影と併せて体験講座を実施した。</p>

令和5年度「千葉県文化芸術推進基本計画」の進捗状況等について

II 「施策の柱」ごとの進捗状況等

3 新たな文化芸術の価値を創造できる社会づくり

～観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業等、他分野との連携により文化芸術が社会の様々な場面で輝く機会を創出する～

成果指標	策定時 (3年度)	目標 (6年度)	実績 (4年度)
観光・国際交流・福祉等、 文化芸術と他分野が連携する事業に取り組んだ市町村の割合 (いずれもオンラインでの取組を含む)	—	70.0%	40.7%

令和5年度「千葉県文化芸術推進基本計画」の進捗状況等について

II 「施策の柱」ごとの進捗状況等

3 新たな文化芸術の価値を創造できる社会づくり

県の主な取組
<p>○千葉県芸術文化団体協議会（文化振興課） 芸術文化フォーラムを開催し、県内文化団体の発表・相互理解の場となった。また、文化芸術功労表彰では加盟団体からの推薦により4名を表彰した。</p> <p>○「グリーン・ブルーツーリズムinちば」推進事業（流通販売課） 都市住民と農山漁村の交流活動を一層推進することを目的に、農泊関係者へのアンケート調査を基に宿泊を伴うモデルプランを作成し、報告会を開催した。 渡航制限の緩和を受け、県内への集客を促すインバウンド向けパンフレットを1万部作成し、成田空港等に配布した。</p> <p>○日本遺産魅力発信推進事業（文化財課） 日本遺産「北総四都市江戸紀行・江戸を感じる北総の町並み」について、アフターコロナに向けた観光客誘致事業の推進及び教育旅行誘致に向けた取組みや、情報発信を行った。</p> <p>○県立学校開放講座（生涯学習課） 生涯学習の振興に資するため、県立学校を開放し、生涯学習講座を実施した（11校12講座）。 昨年度に比べて実施数は増加したものの、人と人との接触を伴うものは実施を見送った。</p>

市町村の主な取組
<p>○洋上から巡る日本遺産「候補地域」紀行実施事業（鋸山臨海歴史遺構クルーズ）（富津市） 金谷港発着のフェリーに乗船し、東京湾上から日本遺産「候補地域」構成文化財である「鋸山」や周辺の歴史的遺構を見学。航行中は鋸山の概要や歴史、周辺の海洋環境について解説を行った。</p> <p>○NAGAREYAMA国際室内楽音楽祭2022（流山市） 市内在住の世界的音楽家プロデューズによる、国内外で活躍する一流演奏家たちの迫力ある演奏を聴くことができる音楽祭。演奏家を公演ごとにかえて3日間におたり開催。</p>

令和5年度「千葉県文化芸術推進基本計画」の進捗状況等について

II 「施策の柱」ごとの進捗状況等

4 次代を担う子どもや若者がちばの文化芸術に触れる機会づくり

～新たな文化芸術の担い手となる子ども・若者が文化芸術に触れる機会を創出する～

成果指標	策定時 (3年度)	目標 (6年度)	実績 (4年度)
県及び市町村における、子ども・若者を対象とした文化芸術事業の参加者数 (子ども・若者の人数に限る) (オンラインでの取組を含む)	—	増加を目指す ※	86,260人

※令和4年度に実施する調査の実績値からの増加を目指す。

令和5年度「千葉県文化芸術推進基本計画」の進捗状況等について

II 「施策の柱」ごとの進捗状況等

4 次代を担う子どもや若者がちばの文化芸術に触れる機会づくり

県の主な取組	市町村の主な取組
<p>○水産物消費・食育対策事業(水産課) 県内の高等学校の料理教室に講師を派遣し、本県の郷土料理である「なめろう」や「さんが焼き」の伝承に努めた。(派遣回数：11回)</p> <p>○学校音楽鑑賞教室(文化振興課) 次代の文化を担う児童・生徒を対象として、質の高い演奏に触れる機会を提供するため、千葉交響楽団による巡回公演を45公演(県立高等学校2校、県内公立小・中学校43校)実施した。</p> <p>○千葉県少年少女オーケストラ育成事業(文化振興課) 指導者を招聘し、定期的に練習を行ったほか、コンサートを県内文化施設で開催し、ライブビューイング及びテレビ放送も行うなど、次代を担う少年少女の音楽文化の向上とオーケストラ活動の普及を図った。</p> <p>○若者の文化芸術活動育成支援事業(文化振興課) 若者による文化芸術団体6団体6事業に対し補助金を交付することで、県民に様々な分野の文化芸術に触れる機会を提供し、文化芸術の発表の機会を設けることで文化振興に寄与した。</p>	<p>○宝珠花小僧将棋まつり(野田市) 野田市出身のプロ棋士誕生のきっかけづくりと、将棋文化の普及・振興を図るため、小・中学生を対象とした将棋イベントを開催。</p> <p>○ピアノに親しむ夏休み♪コンサートグランドピアノ3台を弾いてみよう！U-25(佐倉市) 子ども・若者が音楽に親しむことのできる場の提供及びホールの活用を目的として、25歳以下の方を対象に、市民音楽ホールで所有している3台のコンサートグランドピアノを自由に演奏できる体験型事業。</p> <p>○共催展示 市内高校合同美術展(茂原市) 市内の公立高校3校の美術部員または、美術の授業での作品発表の場として開催。担当教員、生徒たちが、自分たちの作品の展示配置を考え、自分たちで作業を行って開催。</p> <p>○さんむダンスフェスティバル(山武市) キッズダンスを中心としたダンスイベントを開催。</p>

令和5年度「千葉県文化芸術推進基本計画」の進捗状況等について

II 「施策の柱」ごとの進捗状況等

5 ちばの強みを生かした文化芸術の創造・発信

～ちばの強みを生かした「ちば文化」のブランド化と、近年、文化芸術の新たな表現手段や発信・保存方法として発達してきたテクノロジーの導入や、伝統文化及び地域固有の文化と国内外とのコラボレーションなどにより、新たな「ちば文化」の創造を進める～

成果指標	策定時 (3年度)	目標 (6年度)	実績 (4年度)
文化芸術に触れ、自ら取り組むことができる環境が整っていると思う県民の割合	—	50.0%	19.7%

※県政世論調査の結果による。

令和5年度「千葉県文化芸術推進基本計画」の進捗状況等について

II 「施策の柱」ごとの進捗状況等

5 ちばの強みを生かした文化芸術の創造・発信

県の主な取組

○千葉の海をPRする統一デザインの作成事業（文化振興課）

千葉の海の多様な魅力を表現し、「ちば文化」のブランド化及び県民の誇りの醸成に寄与するデザインを作成した。
また、千葉の海のイメージカラーの選定も行った。

○GOGO房総デジタルポイントラリーキャンペーン事業（観光誘致促進課）

文化芸術に触れる機会を創出することを意識して千葉県の魅力が伝わるような特集テーマを40本程度作成し、取り入れた。
その中でも「千葉とクジラのかかわりを知る」といったような「千葉の海の魅力」を体験してもらえる特集テーマを10本程作成し、取り入れた。

○新しい千葉の食文化創生事業（流通販売課）

本県の新たな食文化の1つとして、県内の多彩な農林水産物を活用できるアヒージョに、隠し味として千葉県にゆかりの深い調味料である「醤油」を加え、「黒アヒージョ」として提案していくこととし、SNSをはじめとする様々な媒体を活用したプロモーション活動を行い、普及に努めた。

○県立美術館・博物館事業（文化振興課）

各館の特色を生かし、博物館では千葉の海文化を紹介する「房総のお浜降り」関係の展示をはじめとする本県の自然・文化・歴史を紹介する展示・体験を、美術館では千葉県ゆかりの現代作家による作品の展示を行うなど、年間を通じて様々な事業を実施し、「ちばの多様な文化を知る機会の提供」に寄与した。

○県民の日事業（文化振興課）

県民が千葉の魅力を再発見し、郷土愛を育み、千葉アイデンティティを醸成する機会とするため、中央行事(ちばわくわくフェスタ2022)では「ちば文化資産」に選定されている九十九里地曳大漁節の披露や、ちばの海文化体験コーナー、博物館による展示やワークショップ等を行い、ちば文化の発信を行った。